

北海道栗山町で植樹

9月に森林づくりに関する協定締結

住友林業、吉条木材商会など4社

住友林業木材建材事業本部北海道支店(札幌市、神野太志支店長)と吉条木材商会(東京都、吉条正明社長)、山地ユナイテッド(札幌市、山地章夫代表)、北海道栗山町(同、寺江伸一郎社長)は1日、北海道夕張郡栗山町の山林で植樹を実施した。4社は9月に「栗山町企業の森林づくり」に関する協定を締結しており、植樹のほか、下刈りなど森林整備にも携わる。

栗山町と4社が締結した栗山町企業の森林づくりに関する協定は、北海道で初めて。各社は、北海道が主体となる植樹や下刈りなどを通じて取り組んでいる「ほっかいどう企業」の一環として、1日には植樹が行われ、約150本のトド松が植えられた。



快晴の下、トド松約150本が植えられた

加した吉条木材材商社社長は「今回植えた場所が道路に近く、便利のいい場所だった」と話した。また、それぞれの林地が割り当てられており、1社でおよそ1800本、4社計4社で7000〜8000本を植樹する計画だ。

木材乾燥システムでグッドデザイン賞
フルタニランバー
フルタニランバー(石川県金沢市、古谷隆明社長)の木材乾燥システム「Woodbe(ウッド・ビー)」が、2023年度グッドデザイン賞を受賞した。

ウッド・ビーは、既存乾燥機内に設置した改質水製造装置と特殊石材・抗火石により、乾燥能力を高める技術だ。抗火石を備えた造水装置に通常の水を通過することで、粒子が微細化した水に改質。この水が木材内部に浸透し、乾燥機内の抗火石による遠赤外線効果を利用して改質水を木材に浸透させると、浸透した改質水の作用で木材内部の水分が細分化・気化していき、木材の内側から乾燥する。同社はウッド・ビーの提案を軸に、国産材や県産材製品需要への貢献にも取り組んでいる。木材の商品化サイクルを高め、拡大と活用促進、林業従事者の担い手不足解消、さらには山林の回復、持続可能な循環型社会の構築などにつながる。

抗火石を敷き詰めた乾燥機(ウッド・ビー)内側から乾燥する。同社はウッド・ビーの提案を軸に、国産材や県産材製品需要への貢献にも取り組んでいる。

かま木材フェスティバル2023を開催した。1階広場を会場に、今回はコロナ禍で中断していた木工工作が復活し、久しぶりに通常のモードでの開催となった。開会のあいさつで田中会長は「木に触れてステイバルだ」と話した。今年度は来年度以降は、今年同様、木工工作が復活し、賑わいはひとしおの会場となる。全国的な植樹祭の応援事業として開催する。木材が人の健康や環境にやさしいことを知ってもらう、県産材の利用を促進することを期待する」と述べた。

例年通りに木製品や木工芸品を展示・販売し、木製グッズの見本展示のほか、パギーカーや木製フォトフレームなどキット化された木製品を作る木工工作や家庭組子の体験型イベントが行われた。また、木工工作コンクールの表彰式やミス日本緑の大使によるキター弾き語りも行われた。2日間の来場者は1万1300人と昨年の6500人を大きく上回り、盛況となった。(岡山)

小学校で木育事業
鹿児島県森林組合連合会(鹿児島市、森山裕代表理事会長)と農林中央金庫福岡支店(福岡市、久古谷卓治支店長)は6日、鹿児島県西之表市立安納小学校に、木育活動及び木製品を寄贈した。木育活動で児童は、種子島産の丸太を利用したチェンソーアートを制作した。鹿児島県森林組合連合会(鹿児島市、森山裕代表理事会長)と農林中央金庫福岡支店(福岡市、久古谷卓治支店長)は6日、鹿児島県西之表市立安納小学校に、木育活動及び木製品を寄贈した。木育活動で児童は、種子島産の丸太を利用したチェンソーアートを制作した。

会社探訪

北相木森水舎(長野県南佐久郡、野本浩幸社長)は2021年7月に設立された林業・森林技術コンサルタント会社で、現場作業のほか、林業機械の遠隔操作や自動運転技術の確立に向けた調査事業などを手がけている。野本社長は製鉄会社でエンジニアの仕事に従事した後、長野県林業大学で林業を学んだ。「ユイザーの立場から林業技術の開発に携わり、安全で労災のない林業の実現に貢献したい」と語る。



野本 社長

同社は6月、「社会実装に向けたみちびき」による林業重労働作業「下刈り」の自動化で内閣府の「2023年度みちびき」を利用した実証事業」に採択された。

安全で労災のない林業を目指して

北相木森水舎(長野)

下刈りの自動化で実証事業

林業は間伐から主伐、再造林の時代になり、地ごしらえ、下刈り作業が増えている。だが、造林の機械化は遅れており、主伐、再造林の普及を図るうえで課題となっている。リモート式下刈り機を使えば作業を大幅に省力化できるが、みちびきを使った自動運転により、さらなる効率化を図るのが今回の実証事業の目的。



自動運転開発中の下刈り機 LVS300 PRO

「最近RTRKINGの普及により、林内でも10年前後の誤差で位置情報がかめられるようになったが、正確に測位するためには通信環境が必要で、ケータイが繋がらなくなる範囲が、事故の原因になる。入職者のハートに、木を伐り出すのは大変だと思っただけで、日本の山は急斜面も多いため、安全で労災のない林業の実現に貢献したい」と語る。

分野で活用する森林サービス産業を促進する取り組みの一環、説明会は森林空間の活用に関心がある企業等と森林所有者とのマッチングを支援するもので、フィールドの候補となる森林の紹介や個別面談などが行われる。参加無料。問い合わせは事業受託団体のNPOホールアース自然学校(電話0544・66・0790)まで。

国産針葉樹と前月比保合。ただ、合板は、市中28%も含め、メーカー

と前月比横ばいだが、クルボードや石膏ボ

ているが、パーティ

いる。

カナダ産